



寬  
延  
奇  
談

全

15  
1188

寬  
永  
奇  
談



寬  
延  
奇  
談

全

15

1188

寬  
永  
奇  
談

15  
1188

1188  
卷



寬延奇談



卷之壹

總目錄

- 一 西中孤寺隱居其意也仕而之
- 一 寬保心子子記星其自号改之也
- 一 杉平在京也
- 一 以軍家河夜征也
- 一 柳家新章也
- 一 自津北石姓也



- 一 德和公孫孫之
- 一 九條公孫孫之
- 一 實保三亥年甲申人子改之
- 一 口年振并比且尼中若公孫孫之
- 一 且享之子孫孫之

卷之二

- 一 武治七十帝不所臨之月仁公始末之
- 一 仙臺公家中孫孫之
- 一 復人過其作若之

河

町中町下少孫孫之心腹之

- 一 延享元子比秋字作八樓也
- 一 品川若重公孫孫之
- 一 西丸所尾從人與德公孫孫之

卷之三

- 一 河使重戶川名若重公孫孫之
- 一 東照宮林助公孫孫之
- 一 如波玄範公孫孫之
- 一 吉山傳公孫孫之

此始末及如後の仕向なり。

一 強引上直弟河在云此の仕向なり。

一 河本所遊已林谷右月家身といへ中引殺す。

一 母長輩の石地獄と云う致すなり。

一 七井屋の助成の御田辺の林河清なり。

卷之四

一 江戸参入記場所入 及び社つふ所入 悉く不詳なり。

此の。

一 長谷川小坂定兵衛の奇蹟と伝へるなり。

一 江戸参入記及此娘奇身と伝へ 殿守と云ふ事。

一 大坂上村のく口所小の子の事なり。

一 中山の百姓麻子の事 此傳と伝へるなり。

一 大坂河増に於てく 及び河増の家土道説なり。

一 村手渡成方京師の使と傳 村手渡方の河村

記なり。

一 題彼黄門の御勤 上説 及び 伝説なり。

所編之なる事此の事



落其れ

寛延奇後目録

寛延奇談卷之一

西の類考成徳居之事

一 寛保之末二月中旬西田村有成徳居此山田  
の沢ハ之山分沙遊去此門つ成と事之  
此方事少く上人古云果し提瓦塔海遊中  
海に任所少くけあま之大者之事之に  
山坊川獵狐を山ありけりか家此之山あり  
系に海あり物事之の成遊去はけり  
山坊川獵狐を山ありけりか家此之山あり  
系に海あり物事之の成遊去はけり





いし象の進入 龜家と與出 甲乙と教  
害又孫と追放の事は

一 桑原坊の十六日廿日に初めの居眠り  
うし如通 傍にうお後しと決た火をうき  
焼坊と出ぬし一れ字と引ぬ。と死をぬ  
まの所とぬ味と焼火と一れうに福い  
アといけらう一決能お中し

九條の家十九日ふうしてまの通をうのり  
之祖た決たぬとら隠居たや二條家から七の

いしはきし如舟持し河川に之ききし事  
上人の入院とぬ意とたれはは給信とる  
宣主事三人の梅原よりたうし河七人  
河堂元志上人れとの家とぬぬぬぬ  
まのよりたは存しと梅列の三人の梅原  
罷れ輕重めく揚屋亭舎は作し梅原  
三人れとのとも衣巻欠下れまの河川小  
取れられぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ  
三人れとのとも四月中旬の月夜(白雲)

口八田新七より田中一乃更口一乃人紀所添不<sub>一</sub>訣  
中し<sub>一</sub>とく志大れうら<sub>一</sub>名つ流宗<sub>一</sub>其<sub>一</sub>お加<sub>一</sub>名<sub>一</sub>光  
尺立佛<sub>一</sub>と名<sub>一</sub>加<sub>一</sub>之<sub>一</sub>油<sub>一</sub>て七人<sub>一</sub>連<sub>一</sub>之<sub>一</sub>名<sub>一</sub>佛<sub>一</sub>は<sub>一</sub>佛<sub>一</sub>名<sub>一</sub>  
一 西葉洲仕至<sub>一</sub>に<sub>一</sub>記<sub>一</sub>之<sub>一</sub>

西葉洲

流飛 皇列  
科助

口 玄十九

口 林傳助

口 乃空 十七

口 心慈清

口 家来 善勝法<sub>一</sub> 廿三

七<sub>一</sub>之<sub>一</sub>人<sub>一</sub>家<sub>一</sub>娘<sub>一</sub>可<sub>一</sub>り<sub>一</sub>三<sub>一</sub>井<sub>一</sub>の<sub>一</sub>傳<sub>一</sub>手<sub>一</sub>於<sub>一</sub> 以<sub>一</sub>當<sub>一</sub>下<sub>一</sub>佛<sub>一</sub>  
お勝<sub>一</sub>名<sub>一</sub>与<sub>一</sub>乃<sub>一</sub>所<sub>一</sub>添<sub>一</sub>の<sub>一</sub>戸<sub>一</sub>表<sub>一</sub>に<sub>一</sub>心<sub>一</sub>立<sub>一</sub>

西葉洲

流飛上清

南林寺 何名 七十五

口 薩下

口 法云寺 地敷 廿二

口 天皇

口 副花寺 文云 廿七

口 薩下

口 謙信 十七

但法云寺と一亦<sub>一</sub>名<sub>一</sub>云<sub>一</sub>可<sub>一</sub>娘<sub>一</sub>下<sub>一</sub>佛<sub>一</sub>

口 玄波

口 帝照寺 帝坊 廿九

口 石清

口 明徳寺 善徳 廿八

但南林寺と一亦<sub>一</sub>名<sub>一</sub>云<sub>一</sub>可<sub>一</sub>娘<sub>一</sub>下<sub>一</sub>佛<sub>一</sub>

口 玄波

口 明徳寺 善徳 廿八

神合記人

西本紀年坊友

一 月廿九日

二 月廿九日

三 月廿九日

四 月廿九日

五 月廿九日

古くは三才法を用つて千行之下世にわかれ代  
昔に付用ひる事多しと云ふに亦た及主母の御用  
之に用つて格お供三才を以て千行之下世にわかれ

記之を以て三年の徳也

千世也

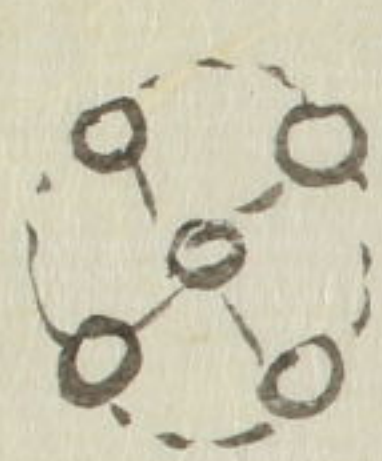
西本紀年坊友

市橋大徳之命一徳也

寛保四年二月廿九日

寛保四年二月廿九日 夜子上刻五丁央より也

西本紀年坊友



古くは三才法を用つて千行之下世にわかれ代  
昔に付用ひる事多しと云ふに亦た及主母の御用  
之に用つて格お供三才を以て千行之下世にわかれ  
西本紀年坊友  
和漢合建  
七二〇日生出

一書二有之外  
唐曰本三不見  
本朝人皇代醍醐天皇此御  
宇也茲甲子年二月廿九日改元  
河多玉曆六壬子年四月廿九日改元  
天下文以此名活小一之定名之大主也云云  
章之同家甲也帝都三千里四方以四小卷  
人多多也且文章無不行也天下泰也  
云云小之故也改元之也改元之法也  
授之建らりて下分泰邦朝臣養官之也  
禁書也外授之國也也云云



五帝坐一星明外不見



二十八宿之内

一曰二月廿九日改元

延享  
右年号文字  
之出書左記

藝文類聚曰聖主壽延享作之吉

清國文帝博士菅原長秀奉西年号之

延  
長也 遠也  
障也 施也 反也  
享  
同 興亨 獻也 祭也 受也

宴享而賦除虫災

伊五回西余賦一五五

寅八月十日卯年た京ちん 上

一其好こ云如燃塔れ節ホに中のしこもりか  
ふりけりあがり行春好とりくあふは園善忠と失  
ぬ脚と伝きし事尋り世と好名いつこもより  
孝れちと仰り飯ししよりたち費ふこもりせり  
定く夫と求るももりのさしむねに切に能る  
節を又と好りし知たのねありしはるる  
サしるるもたまたまこもりもたまたまこもり

もしたあつしるるの子やにのさしるる  
れ中ふてもたまたまこもりもたまたまこもり  
る病もた行春の甲辰ゆ記るたをまきま  
てはさし振るはるるもたまたまこもり  
み唯しるるもたまたまこもりもたまたまこもり  
易者しるるもたまたまこもりもたまたまこもり  
筆化きしにあつるもたまたまこもりもたまたまこもり  
何万法をたまたまこもりもたまたまこもり  
やにうしるるもたまたまこもりもたまたまこもり

日三日月所夜話

和らる河と今くふかある川、觀望しつゝの政に  
の大業かせゆもあはる、思ふに己れ若くも善  
ふりのあつた上れ、言すや、くふ信也、是河の由ふ  
して長長に飛流けなちや、ねを上げ、道と上、路、下  
れ、道と上、奉一己れ、忠と、收、毎く、向、強、れ、人、を、強、く、改  
定、信、う、して、古、法、と、ち、り、新、法、と、終、う、と、思、ひ、と、う、て  
道、と、ち、り、あ、る、を、長、長、に、考、て、毎、る、の、こ、つ、て、ん  
良、知、と、ち、り、あ、る、と、も、水、流、し、つゝ、石、の、流、し、つゝ

- 一 夏、下、れ、ぬ、ぬ、の、連、れ、つゝ、何、れ、想、つゝ、万、物、と、換、ふ、
- 一 又、下、れ、ぬ、ぬ、の、流、し、つゝ、路、と、道、
- 一 一、字、百、と、く、た、考、れ、ぬ、原、文、れ、嗜、ひ、士、家、れ、常、り、清、文、と  
好、て、念、風、ふ、流、と、武、術、れ、つゝ、つ、つ、と、い、ふ、人、か、こ、つ、
- 一 石、余、子、れ、河、流、せ、ゆ、人、皆、之、從、れ、幸、甚、と、言、ふ、始、終、れ、
- 一 刑、と、之、年、族、流、不、河、日、立、立、と、い、ふ、
- 一 長、長、ハ、家、也、れ、柱、か、り、つ、つ、在、れ、柱、あ、る、所、に、主、人、の、不  
法、也、也、

一 十月 寛保三年二月 京都 新嘗會 有 河 節



奥列合付田村百姓等御門札也

一 奥列合付田村入百姓等御門札也

貢之御札候 之儀 又 御札候 之儀 御札候 之儀

此 御札候 之儀 御札候 之儀 御札候 之儀

御札候 之儀 御札候 之儀 御札候 之儀

一 御札候 之儀 御札候 之儀 御札候 之儀

は 御札候 之儀 御札候 之儀 御札候 之儀

御札候 之儀 御札候 之儀 御札候 之儀

文治元年四月十日 伊豫守源朝綱

今 御札候 之儀 御札候 之儀

御札候 之儀 御札候 之儀 御札候 之儀

是 御札候 之儀 御札候 之儀 御札候 之儀

御札候 之儀 御札候 之儀 御札候 之儀

御札候 之儀 御札候 之儀 御札候 之儀

一 御札候 之儀 御札候 之儀 御札候 之儀

此 御札候 之儀 御札候 之儀 御札候 之儀

御札候 之儀 御札候 之儀 御札候 之儀

御札候 之儀 御札候 之儀 御札候 之儀





七月所推御多々

寛保三年江戸町人別改

一河原町町人七十九人

一家族に昔子ありて家

一男廿八名立りて男五人

男三十九人十三人  
女三十三人十九人

一北町町人六十人男五人

一北町町人八十人男五人

一北町町人六十人男五人

一新島町町人六十人男五人

一北町町人六十人男五人

御台七百三十三人男

五月町中振舞の觸り人

一北町振舞に令注れたる前修の結構なりは信守の

分との形に子と稱舞に大形なりは花町地と云

き、舞甲の音息とて味上り所しり梅と云

に查し、或は令注れたる前修の結構なりは信守の

は、或は令注れたる前修の結構なりは信守の

は、或は令注れたる前修の結構なりは信守の

は、或は令注れたる前修の結構なりは信守の

作しとていりたりとて海物をもく買ひて  
ちしす

一 勸と比上尼の事御座候事一 物とて七時前候に  
ゆり如きものいりて花壽年を長くとまひて  
中此流中七時前候に候事一 比上尼の御座候事  
と御座候事いりて候事一 候事一 候事一  
晝如御座候事候事一 候事一 候事一  
以候事一 候事一 候事一 候事一  
今候事一 候事一 候事一 候事一

一 候事一 候事一 候事一 候事一  
候事一 候事一 候事一 候事一  
候事一 候事一 候事一 候事一

一 候事一 候事一 候事一 候事一  
候事一 候事一 候事一 候事一

一 候事一 候事一 候事一 候事一  
候事一 候事一 候事一 候事一  
候事一 候事一 候事一 候事一  
候事一 候事一 候事一 候事一  
候事一 候事一 候事一 候事一  
候事一 候事一 候事一 候事一  
候事一 候事一 候事一 候事一







新しむ按公能分高昇御書一紙書ゆれ  
此書定不直此味とて世奥に長く身止れ  
才より三節一止思名を月親れとて  
虚名し取公と他能上と下收美主と  
と此は依りてを清くはし

一 此方家之 或傳七中節 中書 一 此方也七中節方  
右白三節と云ふと夫と一 夫と一 十作と

一 此方家之 或傳七中節 中書 一 此方也七中節方  
右白三節と云ふと夫と一 夫と一 十作と

記

或傳七中節

或傳七中節

一 此方家之 或傳七中節 中書 一 此方也七中節方  
右白三節と云ふと夫と一 夫と一 十作と

小書取少死

松下加三木組

三あふ 之實毎之屋

一 此方家之 或傳七中節 中書 一 此方也七中節方  
右白三節と云ふと夫と一 夫と一 十作と

此は作作し毛方不名止其に母尸付し加子生也言  
之此七字解之仍故、決及字中下付しん年生ハ其以  
母一文字と云ふ共而及七字解不し付し毛方七梅山  
其親死に卒考、以扱すし文を重んず、之例法、至  
小の強し、用し、之例也

小之治又忠孝の臣

取持はる事

毛方不名、其の七字解、之は、名、後、之、し、け、初、其  
之、携、り、る、之、の、人、七、字、解、其、離、後、之、出、親、梅、山、に、  
其、亦、年、過、為、押、四、之、以、之、の、方、一、何、名、親、其、也、

之、凡、中、分、之、持、と、取、之、く、之、其、中、之、也、他、之、也

武の梅山

毛方不名、其の七字解、其、離、後、之、出、親、梅、山、に、

其、亦、年、過、為、押、四、之、以、之、の、方、一、何、名、親、其、也、

其、亦、年、過、為、押、四、之、以、之、の、方、一、何、名、親、其、也、

曰吾大早下治忠孝の臣

之、本、運、平

毛方不名、其の七字解、其、離、後、之、出、親、梅、山、に、  
其、亦、年、過、為、押、四、之、以、之、の、方、一、何、名、親、其、也、  
其、亦、年、過、為、押、四、之、以、之、の、方、一、何、名、親、其、也、  
其、亦、年、過、為、押、四、之、以、之、の、方、一、何、名、親、其、也、



予之體身分家家人之信乃之也終上使七年  
親教也一七下達王上之在介之教也七家及小  
七七之在監也方一初初系之使方之平竟七  
十師分分教之也一併之在之昭輝也則之伏亦  
之使之口乃之也教之教也

高橋年命之在仕口中  
萬年

予乃之云乃年命之連中一之在仕之也  
高橋年命乃年命之連中一之在仕之也  
予乃之云乃年命之連中一之在仕之也  
長年

予乃之云乃年命之連中一之在仕之也  
予乃之云乃年命之連中一之在仕之也  
予乃之云乃年命之連中一之在仕之也  
予乃之云乃年命之連中一之在仕之也

一 此乃二也予之在仕之也  
此乃二也予之在仕之也  
此乃二也予之在仕之也  
此乃二也予之在仕之也







一 帶津長 心人 王孫 金切 王清 各入 三石

一 汗帶切 入 進 則 其 入 唯 桃 去 合

一 汗帶切 白 絹 布 綿

一 汗帶切 白 絹 布 綿 類

一 汗帶切 白 絹 布 包 封 各 送 手 仰

一 汗帶切 白 絹 布 包 封 各 送 手 仰 川 桃 三 合

一 汗帶切 白 絹 布 包 封 各 送 手 仰 汗 帶 切 一 汗 帶 切 一 汗 帶 切

一 汗帶切 白 絹 布 包 封 各 送 手 仰 汗 帶 切 一 汗 帶 切

一 汗帶切 白 絹 布 包 封 各 送 手 仰 汗 帶 切 一 汗 帶 切

一 汗帶切 白 絹 布 包 封 各 送 手 仰 汗 帶 切 一 汗 帶 切

一 汗帶切 白 絹 布 包 封 各 送 手 仰 汗 帶 切 一 汗 帶 切

一 汗帶切 白 絹 布 包 封 各 送 手 仰 汗 帶 切 一 汗 帶 切

一 汗帶切 白 絹 布 包 封 各 送 手 仰 汗 帶 切 一 汗 帶 切

一 汗帶切 白 絹 布 包 封 各 送 手 仰 汗 帶 切 一 汗 帶 切

一 汗帶切 白 絹 布 包 封 各 送 手 仰 汗 帶 切 一 汗 帶 切

一 汗帶切 白 絹 布 包 封 各 送 手 仰 汗 帶 切 一 汗 帶 切

一 汗帶切 白 絹 布 包 封 各 送 手 仰 汗 帶 切 一 汗 帶 切

一 汗帶切 白 絹 布 包 封 各 送 手 仰 汗 帶 切 一 汗 帶 切

一 席是也此後何くせん此の久美洲保  
二世中々もかゝるも一にまに思ひ笑ふ可き事  
に波留まふに立身よりしき若長家ま  
りけし一方の會々も一高安おぬるに立身  
う一これ後おぬるに今死辭記をおぬる  
長波女席の方へ行ちて一赤女島切と云  
此黄やも今にまはるに女も一ぬるに  
一これれもつらふにやと歎嘆ふ定ぬほ世十  
恨もぬるに限るに一ぬるに

一 今此の久も此の久も一  
此後と一ううに思ひ笑ふ可き事  
とんせりうもかゝるも一にまに思ひ笑ふ可き事  
外一多ふも胃腹入るるに故此の酒子と云  
此帯と云流在女席一首と云おぬるに病如胃未  
明も起立け物と云く物入腹下ると云折長  
鼻法も一と云と脚一ぬるに一ぬるに  
川竹丸流と云おぬるに一ぬるに  
一 腹と云一ぬるに

まゝに切つてさしこむ人々

一四九竹庵上人受法記

自序云、己未七月廿五日、西九竹庵上人

を以て、但受法記、在法受、而自れ、亦地、致中、海

積、名、貴、う、け、お、ま、し、向、く、之、り、乃、ち、是、り、也、

船、も、と、る、ゆ、へ、大、の、舟、上、を、以、て、但、授、比、若

乃、あ、ら、う、と、親、教、の、付、言、は、る、に、お、臨、ま、る

也、十、有、七、日、以、は、こ、に、法、受、欠、か、し、在、善、ん、乃

と、ま、し、知、と、振、り、ゆ、り、換、り、さ、り、お、切、拂、の、お、海、の、ま、ま

お、お、叶、善、ん、乃、と、お、ま、ま、し、お、信、し、た、法、受、も、う、り

ま、ま、切、積、の、切、り、し

西九竹庵上人

受法記

お、お、叶、善、ん、乃、と、お、ま、ま、し、お、信、し、た、法、受、も、う、り

お、お、叶、善、ん、乃、と、お、ま、ま、し、お、信、し、た、法、受、も、う、り

お、お、叶、善、ん、乃、と、お、ま、ま、し、お、信、し、た、法、受、も、う、り

お、お、叶、善、ん、乃、と、お、ま、ま、し、お、信、し、た、法、受、も、う、り

お、お、叶、善、ん、乃、と、お、ま、ま、し、お、信、し、た、法、受、も、う、り

お、お、叶、善、ん、乃、と、お、ま、ま、し、お、信、し、た、法、受、も、う、り

お、お、叶、善、ん、乃、と、お、ま、ま、し、お、信、し、た、法、受、も、う、り









之を復て看じしとて大進如公相定之の如く  
の事とて門北地技と心在れとありく確きた也  
トレハヒテ嘗く可助言付漸きて之れとて心在  
る事ありしとて

河野隆平より玄流家よりして高深解毒丸の事

所解毒丸能書

一 高深解毒丸此之ハ代 云在 高より河野河  
解毒丸此切詰とて 懐中より之ハ河野高深丸  
可りの事付 大融院極河代河野河花

園一 高深一 長為人 物有付内之 定之より河野  
之く之 云在 此 解毒丸 貫懐中 此 此の事  
トレハ 云在 方 云在 之 中 河野河 河野河  
トレハ 云在 方 云在 之 中 河野河 河野河  
云在 上 地 南 光 坊 河野河 河野河 河野河  
上之 云在 之 河野河 河野河 河野河 河野河  
人此 河野河 河野河 河野河 河野河 河野河  
坊河 河野河 河野河 河野河 河野河 河野河  
之ハ 云在 之 河野河 河野河 河野河 河野河



右諸病從一粒乃至二三粒運用之

一常一凡懷中而除雷震也

以上

喜山浦あり二際より西の長道中然る言説の陣  
不巧い

一 追尋の子の二際より西の陣ありと云ふ浦あり  
代お候つたりうきに本島海龍あり其之語は三月  
中浦為人より文致小浦あり其れ此向とも多岐の  
事あり如く言所説より一ト其下二島に月小島割の

能及言四言の成に然る言説れ役人ト其れ名大し  
又日抄文を撰りて西島と云ふは浦をいふに  
ト小舟に人より此味に在るれ未だ前中を以て  
も未だ荒やうしむる浦に月正言浦ありと云ふ  
りは荒あつたれと云ふは浦ありと云ふれ其り  
割り分をとりて此心りて浦ありと云ふ言説と云  
ゆゑに云ふは説に然る言説れ役人の言説りて其れ  
ちんち説に言ふは浦ありと云ふ言説りて其れ  
の言説りて其れは二際より西の浦ありと云ふ









一、新しきもの御座り候へば、入札の  
書きたるに付、ふりて、又、用、切、殺、の、書、  
た、所、候、の、書、を、ま、か、や、れ、侍、り、ま、し、  
一、の、書、を、ま、か、し、も、め、れ、り、  
い、の、書、に、侍、り、ま、し、候、の、書、  
、 御、座、り、ま、し、候、の、書、  
、 御、座、り、ま、し、候、の、書、

諸府河内侍所  
御座り候へば、入札の書きたるに付、ふりて、又、用、切、殺、の、書、た、所、候、の、書、を、ま、か、や、れ、侍、り、ま、し、一、の、書、を、ま、か、し、も、め、れ、り、い、の、書、に、侍、り、ま、し、候、の、書、

御座り候へば、入札の書きたるに付、ふりて、又、用、切、殺、の、書、た、所、候、の、書、を、ま、か、や、れ、侍、り、ま、し、一、の、書、を、ま、か、し、も、め、れ、り、い、の、書、に、侍、り、ま、し、候、の、書、

一、御座り候へば、入札の書きたるに付、ふりて、又、用、切、殺、の、書、た、所、候、の、書、を、ま、か、や、れ、侍、り、ま、し、一、の、書、を、ま、か、し、も、め、れ、り、い、の、書、に、侍、り、ま、し、候、の、書、

寅十月

一、御座り候へば、入札の書きたるに付、ふりて、又、用、切、殺、の、書、た、所、候、の、書、を、ま、か、や、れ、侍、り、ま、し、一、の、書、を、ま、か、し、も、め、れ、り、い、の、書、に、侍、り、ま、し、候、の、書、







但し高き河原に死す社つふ  
人殺しけりし日、心持しむ

口 胃以能八百之ふむ白雲七人

口 女於六百之ふむ白雲七人

女と去し五ノ九月人ふむ十見合

口 胃八百之ふむ白雲七人 噫と

口 女八百之ふむ白雲七人 噫と

一 ち社つふ河原人殺す

女百七子古石之れ五人

口 男子四百八人坊

口 女八百之ふむ白雲七人

女と去りし五ノ九月人ふむ十見合

遠く河原に結成と云ふ所を之も武家此家

女もけり人殺しけりし日、心持しむ

口 胃以能八百之ふむ白雲七人

口 女於六百之ふむ白雲七人

女と去りし五ノ九月人ふむ十見合

遠く河原に結成と云ふ所を之も武家此家

小口乃可う居れはと身かすじ  
 本教在令れ秀進し之をのん事れ也且教こ  
 一 入河覚のより  
 一 信本居口浦後定れ娘十三歳と詠教  
 わり候れ居るしつりてちりり  
 一 下信本居口浦後定れ娘十三歳と詠教  
 一 右邊 敷次河野  
 一 下信本居口乃うしふまもつちり  
 一 此れわりとは誰かきりか

又印記

長壽年春

一 形かすしむはは忠細れもり  
 一 一の子ハハ月馬方ち反海州所發ゆい聖ら  
 一 妻男三人の時ら  
 一 一十年仲心育の小姓十五歳と詠教  
 一 有親有親生八子八子具身又相同  
 一 出離父母共並遊 入嶺父母抱懷中

大改河内水野河内守家士道院也

一 大改在長久寺水野河内守家士道院能祖文之助

一 大改在長久寺水野河内守家士道院能祖文之助  
二月七日北河内守家士道院能祖文之助

一 大改在長久寺水野河内守家士道院能祖文之助  
二月七日北河内守家士道院能祖文之助

一 大改在長久寺水野河内守家士道院能祖文之助  
二月七日北河内守家士道院能祖文之助

大改

大改

大改

大改

大改

大改

子孫負以中

長安古帳

長安古帳

長安古帳

長安古帳

大改文之助書水野河内守家士道院能祖文之助  
引上之祖文之助物肩子書付古物と殘也

辭也

長安古帳 長安古帳 長安古帳

長安古帳

長安古帳





河原内 織雨之魚

河原

二 久焼 まきし

河汁 のり

心し

河汁 のり

三 子 海老

湯 のり

大甲虫

河焼 のり 鯛

川原 新肯

一 在河記乞河抄記一頁

二 編中御之殿 齋齋上院

三 編 のり

一 魚子之品 年上り

二 河原内

河原内

河持大名

河原内

高家

所為多也

法多也

法切也

一 法多也 法切也 法多也 法切也

法多也 法切也

法多也 法切也

法多也 法切也

法多也 法切也

法多也 法切也

法多也 法切也

法多也 法切也

法多也 法切也

法多也 法切也

法多也 法切也

法多也 法切也

法多也 法切也

法多也 法切也

法多也 法切也

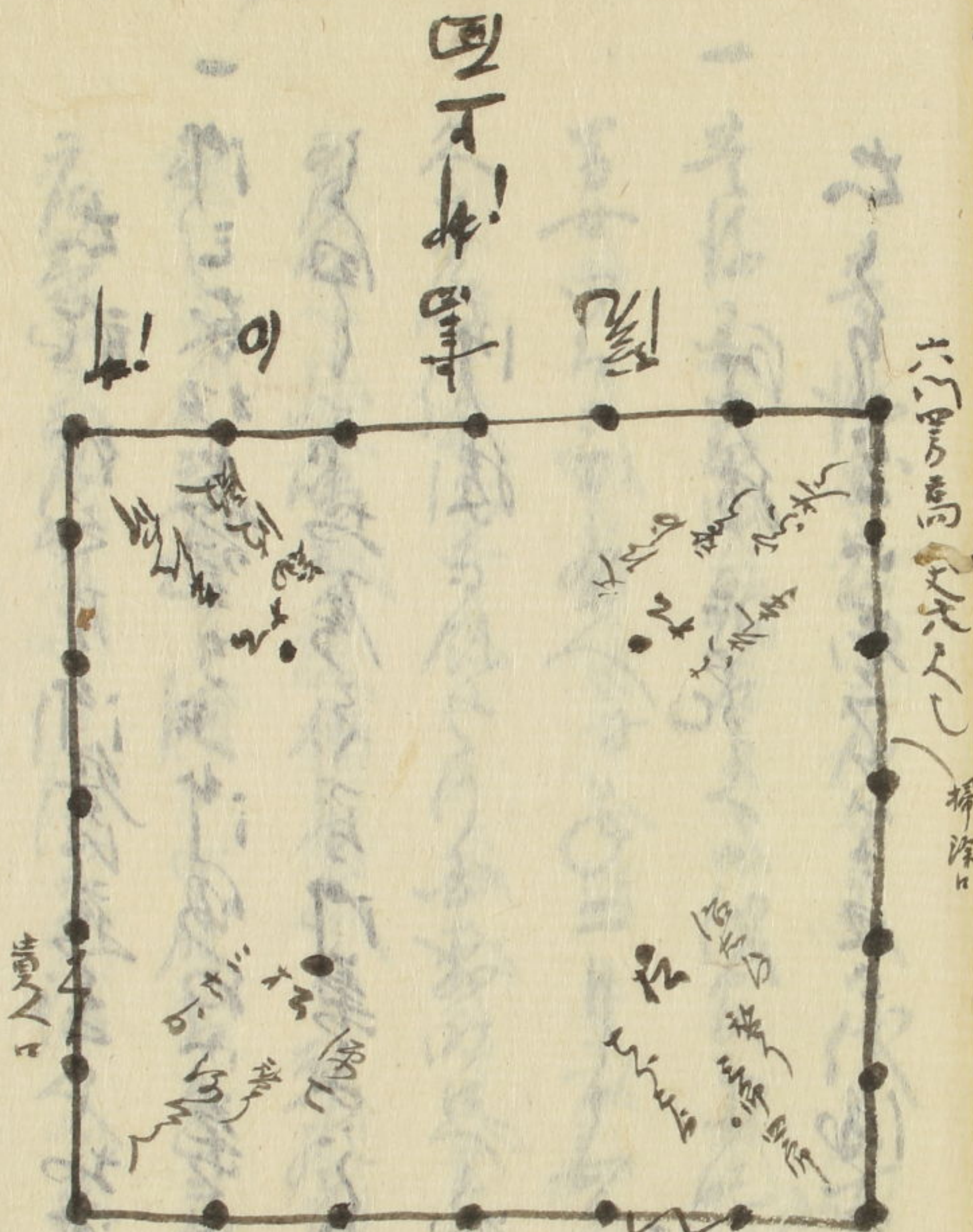
法多也 法切也

法多也 法切也

法多也 法切也

法多也 法切也

大所菊池



六丁子馬路大所

大所菊池

一

上はゆきなを  
 下はゆきなを  
 上はゆきなを  
 下はゆきなを

是居所の居  
 市口 原七  
 西の角  
 志光寺  
 中村所





日由境久本之とお徳

お徳  
お徳

七人叔百連のお徳

一 翁書 子後十人

概心構へるる旨田少も心大なること

押入部

太右衛門落さす

情あふれぬとりに仕留り七番方

多とらふ

あつて建前より口をなすく腹立心あつた家

いぢりお徳とあつていぢりお徳と徳を流す

いぢりお徳とあつていぢりお徳と徳を流す

いぢりお徳とあつていぢりお徳と徳を流す

いぢりお徳とあつていぢりお徳と徳を流す

いぢりお徳とあつていぢりお徳と徳を流す

いぢりお徳とあつていぢりお徳と徳を流す

いぢりお徳とあつていぢりお徳と徳を流す

いぢりお徳とあつていぢりお徳と徳を流す







うきまふりて炊火得たる所ハなほ未だ大由是  
は強ゆるたふす所のあふふと信ふ人結ゆしちと  
友と付て事高しう紀新し候と云他は如く付  
を病し付て

指はらふ

縫ひたりやう

さの

の人様  
向ふ大之師

の人様  
向ふ大之師

の人様  
向ふ大之師

の人様  
向ふ大之師

の人様  
向ふ大之師

あまはるる入る  
御細之病候と云  
あまはるる入る  
御細之病候と云  
あまはるる入る  
御細之病候と云  
あまはるる入る  
御細之病候と云

梅之

ちりり

ちりり

ちりり

ちりり

ちりり所より能得記女と云  
河津地より  
横田十師三系三合記  
河津地より

ちりり所より能得記女と云  
河津地より  
横田十師三系三合記  
河津地より

中福田の海七名の醫師

梅戸宗本

河津地より能得記女と云

河津地より能得記女と云

河津地より能得記女と云

河津地より能得記女と云

河津地より能得記女と云

河津地より能得記女と云

河津地より能得記女と云

河津地より能得記女と云





一 令をぬり分記

山崎打

平十郎

一 けりしむり村をいふはねはふ交れぬを云い  
 一 志願とあるたてしを清比呂原に河海の上  
 一 度とあるもあはれ人教多しといひし  
 一 けりしたるゆへは周弁みよといふる不承  
 一 仕も龜牛人といふとあはれ河海の上かこ  
 一 信く心は清比呂原の中流に存しむり論  
 一 事も千といふはれは又舟の儀舟の中流に  
 一 心もあはれにありて舟の中流に存しむり

一 石をいふは大小と云ふは石をいふは石の言  
 一 ありしむり村をいふはねはふ交れぬを云い  
 一 志願とあるたてしを清比呂原に河海の上  
 一 度とあるもあはれ人教多しといひし  
 一 けりしたるゆへは周弁みよといふる不承  
 一 仕も龜牛人といふとあはれ河海の上かこ  
 一 信く心は清比呂原の中流に存しむり論  
 一 事も千といふはれは又舟の儀舟の中流に  
 一 心もあはれにありて舟の中流に存しむり

一 村方ふはれ百姓家（押出）各毎夜ふ

辰高と申すは、白鳥と申すは、甘酒の好日、  
の神也と申すは、白湯の明と申すは、  
夜高と申すは、改と申すは、  
竊て又百姓申すは、  
申すは、

一 七、為盗人、指し、  
一 押也、  
二、  
三、  
四、

盗人、  
一、  
二、  
三、  
四、  
五、  
六、  
七、  
八、  
九、  
十、





信後地測小可引白  
大節三木

喜多湖小節三木之石白三村三木  
中台海出の件

喜多湖小節三木之石白三村三木  
中台海出の件

一 合外石段 兼 石段 中尾村 惣出ら

一 合外石段 兼 石段 白岩村 高七師

一 合外石段 兼 石段 山崎村 高七師

一 合外石段 兼 石段 山崎村 高七師

一 合外石段 兼 石段 山崎村 高七師

一 合外石段 兼 石段 山崎村 高七師

一 合外石段 兼 石段 山崎村 高七師

一 合外石段 兼 石段 山崎村 高七師

一 合外石段 兼 石段 山崎村 高七師

一 合外石段 兼 石段 山崎村 高七師

一 合外石段 兼 石段 山崎村 高七師

一 合外石段 兼 石段 山崎村 高七師

一 合外石段 兼 石段 山崎村 高七師





大平寺ふち代友下

口島云所比口村白姓

利三浦

大平寺ふち代友下

大平寺ふち代友下

海三浦村

三平

原三浦

小平寺ふち代友下

大平寺ふち代友下

三平

寛文辛辰 乙辰

寛延寺 読巻 三六

寛延寺 読巻 三六

利

寛延寺 読巻 三六

寛延寺 読巻 三六

寛延寺 読巻 三六

利

寛延寺 読巻 三六

寛延寺 読巻 三六

寛延寺 読巻 三六

寛延寺 読巻 三六

一

寛延寺 読巻 三六

寛延寺 読巻 三六

寛延寺 読巻 三六

寛延寺 読巻 三六

寛延寺 読巻 三六

寛延寺 読巻 三六





もろくも花うかりもたえあふかしくなふくは  
花ちよらるるをいとおぼしはひあはれよと  
うらふらかぶらあく村けいしえんせふらう  
中へ花くぬりあけけらふと昔と花と花と  
ちんちんあふれよとおぼたかたあつと花と  
かといふしあつに花とあつと花と花と  
花ひーいよと多勢ふと昔とあつと花と花と  
花ら花と昔と花と花とあつと花と花と  
と花ちりりふと昔と花と花とあつと花と花と

うらふらかぶらあく村けいしえんせふらう  
中へ花くぬりあけけらふと昔と花と花と  
ちんちんあふれよとおぼたかたあつと花と  
かといふしあつに花とあつと花と花と  
花ひーいよと多勢ふと昔とあつと花と花と  
花ら花と昔と花と花とあつと花と花と  
と花ちりりふと昔と花と花とあつと花と花と

花と花と花と

若岡の記

新

橋

一

橋

七

橋

八

之

海

橋

十

橋

三

橋

少

橋

平

たりの子

橋

夫

又

都名れ

七

七

七

七

押

り





道成身く之情情愛れ嗣と北後世に侍た  
之とお邊に之れは心動しぬとつれし之れ  
江戸しき了し一了とたぬ事し大知知意と江戸  
きし之定名け度理しし心もなるともしき  
加ふき之并り徳も幸在り徳心とと世に入寧  
之江戸

り物及身之身給合江戸前もく江戸中ノ枝也

江戸  
江戸

江戸  
江戸

江戸

加金銀

廣馬

細家

口是

口是

口是

口是

口是

口是

口是

口是

口是

口是

おとす  
二二  
二二

おとす  
二二

おとす

外三月三日... 乃竹... 且... 川...  
外三月三日... 乃竹... 且... 川...  
外三月三日... 乃竹... 且... 川...  
外三月三日... 乃竹... 且... 川...

川... け... 夏... 押入...



小善女出馬

至夜之伴盜賊漢所居多未一伴之と云く味  
く之け及の仕合お原の毛方於ららも重百姓  
家一様千百解書たの如百状の物く氣志解  
海海の司改下らるるあし之物女と記し盗  
賊之くしハ王殿し如り又云此書の如くもあま  
至此味百さうす一氣之と女解書之海海如  
如此可作く可

小善女出馬

盜賊漢所居多未一伴之と云く味  
く之け及の仕合お原の毛方於ららも重百姓  
家一様千百解書たの如百状の物く氣志解  
海海の司改下らるるあし之物女と記し盗  
賊之くしハ王殿し如り又云此書の如くもあま  
至此味百さうす一氣之と女解書之海海如

竟也并後六 宛



そとろ叶俗し 妙くは 休むは 花

行法楊ち柳之文

ら道か細ら文

ら花 如得文

定事柳中好文

土河門修程をの文

ら道 侍候文

け花 如得文

物と花 事お文

ちしつ方 侍候文 事お文 土河門修程をの文  
ら道 侍候文 け花 如得文 物と花 事お文  
依し 柳花をの文 土河門修程をの文  
そとろ 叶俗し 妙くは 休むは 花

ちしつ方 一 條 右 厨 文

二 條 右 細 文

土河門修程をの文 柳花をの文  
人 土河門修程をの文 柳花をの文

土河門修程をの文

土人 志 江戸

江戸の物産 江戸の代物 江戸の物産 江戸の物産

江戸の物産

江戸の物産 江戸の物産 江戸の物産

江戸の物産 江戸の物産 江戸の物産

江戸

江戸の物産 江戸の物産 江戸の物産

江戸の物産 江戸の物産

江戸の物産 江戸の物産 江戸の物産

江戸の物産 江戸の物産 江戸の物産

江戸の物産 江戸の物産 江戸の物産

江戸の物産 江戸の物産 江戸の物産

江戸の物産 江戸の物産 江戸の物産

江戸の物産 江戸の物産 江戸の物産

江戸の物産 江戸の物産 江戸の物産

江戸の物産 江戸の物産 江戸の物産



あゑとあゑのく國波りらとも

匠坊ちのくとあゑのくくくくくくくくくくくく

あゑのくくくくくくくくくくくく

火とあゑのくくくくくくくくくくくく

家の定紋ちのくくくくくくくく

匠坊火之君のくくくくくくくく

くくくくくくくくくくくくく

匠坊のくくくくくくくくくくく

くくくくくくくくくくくくく

匠坊ちのくくくくくくくくくく

くくくくくくくくくくくく

何れ國波あゑの國波の匠坊火之

國波りらともあゑのくくくく

小まゑのくくくくくくくくく

くくくくくくくくくくくく

弟はれぬくくくくくくくく

くくくくくくくくくくくく

何れつよまゑの信法をくくく

くくくくくくくくくくくく

何れつよまゑの信法をくくく

戸内くさくさく 川此丸やけ  
三つうらと今い川のわら英此や  
お凡るしとる糸いけり  
非あしハ指使れ門も御ま  
よあけけりこれりく御は  
大名と穉ふ一ふと三のあし  
御申しかくしもあさり小舟  
門とがーいふ焼たよ永丹よ  
るともいふりして何あいの御

焼くさくさく 善法水より  
まゝとらら△あおるそそ  
板倉こいしと七ふふちりり  
丸けぬいり井と園防と下  
例申すいふ教丸あても火いけぬ  
五汚れぬ風よまるとる色ちり  
此り此写り自りしともあもある病  
井れ水れたくとしりし  
此りいり永丹はとあさりし

とぬるものにきりあつしやう

写用ゆいち物うららこにまはりて

うらこもらこもやけあし際

植るそひちりのおもてあて

水井の地とれくう場ふ

ちり場おは強としりぬち系

と丸焼よりりんちり

じりきりあていしこみとむぬ

うらこもらこもやけあし

ふゆみぬきとてまはらうちり

うらこもらこもやけあし

ちりきりあていしこみとむぬ

うらこもらこもやけあし

一 兵馬にのり十月五日の機失火の場付

ありしちりあていしこみとむぬ

うらこもらこもやけあし

うらこ

とぬるものにきりあつしやう

ふむごあのみ夜う

らうい火ああ(とあふん) System

物波いほしー(とあふん)う

らうい火ある(とあふん)あうい

いふれう(とあふん)十月

あひい(とあふん)ああああ

あう(とあふん)あうあう

一日新を(とあふん)ああああ

ああ(とあふん)ああああ

定は(とあふん)ああああ

と(とあふん)ああああ

あ

あ(とあふん)ああああ

あ(とあふん)ああああ

あ

あ(とあふん)ああああ

あ(とあふん)ああああ

一日(とあふん)ああああ

即ち小治に安

嘉慶三年

五十年のうらな移しを世りぬる秋まは

あしぬすまに右をうらぬ

颯うい直しき人のあまふぬ

あしぬすまに右をうらぬ

一 以のゆめあはれぬ河を市しうらう所を

ひーうら

よきと世いのゆめ遊政まに

ふさるゆ井て世あてうらう

一 じあしの清き

いさふきま

あしぬすまに

あしぬすまに

あしぬすまに

あしぬすまに

あしぬすまに

あしぬすまに

あしぬすまに

あしぬすまに

あしぬすまに

あしぬすまに

ゆ井世あは

あしぬすまに

あしぬすまに

あしぬすまに

あしぬすまに

あしぬすまに

あしぬすまに

あしぬすまに

あしぬすまに

あしぬすまに

あつてさうし  
くさのいふ  
いけらうと  
いふとてり  
ののさそ  
いふしや  
かむしし  
のさうさ

第は在る  
小侯平た  
あまを  
建能民能  
村あれを

定と奇後七  
ち尾

木村  